

1. 研究目的

駅やデパート、標識など街中には沢山のピクトグラムがあふれている。また、オリンピックにも毎回競技種目を表すピクトが使われている。

2016年のオリンピック開催候補都市の中に、東京も含まれている事を知り、東京での二度目のオリンピック開催を前提とし、そこで使用するピクトグラムを制作することにした。

2. 調査と分析

- ・ピクトグラムとは
サインやイラストを用いて、警告や注意や案内を誰にでも判りやすく伝える絵文字の事である。
- ・オリンピックとピクトグラム
オリンピックにピクトグラムが使われ始めたのは1964年の東京オリンピックである。日本にピクトグラムが浸透し始めたのもこの時である。
- ・今までのオリンピックのピクトグラム
1968年メキシコ大会を除き、1988年ソウル大会まで、競技のピクトグラムは規則的で端的な物であった。しかし、1992年バルセロナ大会のピクトグラムは、規格に縛られない競技者の肉体美を表したデザインとなっており、それ以降、オリンピックのピクトグラムは毎回、大会ごとに新しいイメージを有するピクトグラムが制作されている。例えば、アテネでは古代ギリシャ文明の美術文化を取り入れたもの、北京オリンピックでの甲骨文字のイメージを取り入れたものなど、本来のピクトグラムの役割に加え、それぞれの開催国のイメージを表現する物へと変わってきているのが、近年の特徴となっている。

3. コンセプトの立案

- ・日本の雰囲気を出したピクトグラム。
- ・これまでのピクトグラムと同様に、競技種目は人の動きを使った動作の表現とする。

4. デザイン展開

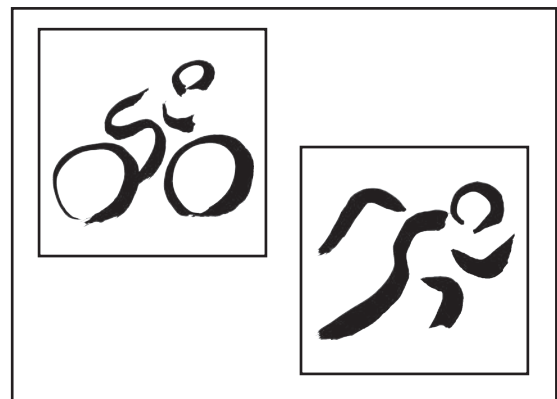
- ・国としての雰囲気、文化性を出すにあたって—
古くからある筆文字の文化を反映した墨と筆で表現したもの、もしくは、近年のデジタル文化を取り入れドットでの表現を考えた。しかし、ドットでは人の動きの微妙なニュアンスが、表現しづらく、

絵柄と背景の二色での表現では、新しい時代の物というよりは、前時代的なイメージになってしまったのでNGとした。

- ・競技を表す人の動作の形—

これまでのオリンピックで使われた形の中から、一番その競技を表現できていると思われる物を参考とし、筆での表現にマッチするように調整した。

5. 完成図



6. 結論

バレーやサッカーなどの球技は、割と表現しやすかったが、陸上や体操といった、ほかのアイテムを使わない競技を表現するのに苦労した。

筆を使うと微妙なニュアンスを持った物となってしまう、ピクトとしての純化した形にするのに苦労した。しかし、これまでにない新しいピクトグラムが作れたと思う。

7. 参考文献

Tokyo 2016-東京オリンピック・パラリンピック招致委員会 日本だから、できる。新しいオリンピック！
<http://www.tokyo2016.or.jp/jp/>
歴代オリンピックのポスター・メダル・ピクトグラムなどのアーカイブ集
<http://coliss.com/articles/build-websites/openation/design/1385.html>